

安定した在宅医療の提供を目指して ～くまもとメディカルネットワークの活用～

一般社団法人菊池郡市医師会
事務局在宅医療担当 浦田保憲

菊池郡市医師会では、「医療情報・在宅医療ネットワーク委員会」を設置し、安定した在宅医療提供体制づくりが取り組まれています。

当事務局は委員会の先生方の指示のもと、菊池郡市医師会立病院地域医療連携科に設けられている「菊池郡市在宅ドクターネット」(以下、Dr ネット)事務局と連携し、「きくち圏域みんなの在宅ネットワーク」を両輪にして、医療機関をはじめとして介護関係機関等との「医療・介護連携」を基本とする連絡・調整などの業務を担っております。

[菊池郡市医師会 | 菊池郡市在宅ドクターネット \(kikuchi-med.or.jp\)](http://kikuchi-med.or.jp)
[HOME | きくち圏域みんなの在宅ネットワーク \(kikuchi-zaitaku.org\)](http://kikuchi-zaitaku.org)

さて、令和3年の当圏域の後期高齢者人口は約24,000人で、独居率は35%程度です。後期高齢者の増加とともに、通院が困難となり、自宅等を療養場所として選択される方々が相当数増加することが予想されています。

また、熊本市に隣接する本圏域は、熊本市からの人口流入などとともに、半導体関連企業等の進出などもあり、15歳から65歳までのいわゆる生産年齢人口も増加しており、医師はもとより看護師などの医療従事者等のマンパワー不足は深刻な課題となっています。



このような中、マンパワー不足を補完する一つのツールにICTの活用があります。

熊本県と熊本県医師会が連携して整備を進めているICTである「くまもとメディカルネットワーク」(以下、KMN)は、医療情報を迅速かつ安全に共有することができ、現在県下で約700の医療機関や介護関係などの事業所に導入され約40万人の住民の方々から参加同意が得られ運用されています。

[利用施設一覧 | くまもとメディカルネットワーク \(med.or.jp\)](http://med.or.jp)

そこで、Dr ネットでは、このKMNを活用し、関係者間の連絡や患者情報の共有化を迅速かつ安全に図り、Dr ネットのそれぞれの在宅主治医とともにDr ネット全体で在宅療養者を見守る体制づくりが模索されています。

具体的には在宅主治医が学会出張等の不在時に急変があっても、Dr ネットのメンバーが迅速にバックアップできるようなシステム作りの検討が鋭意進められています。

菊池圏域でのKMN利用施設は現在、医療機関や介護関係事業所、行政機関などを含め60か所程度で今後の拡大とともにKMNの機能は日々向上しております。

医療機関や介護事業所等をつなぐ多職種連携ツールとしても在宅医療に欠かせない重要なインフラとして積極的な活用を目指しています。

より多くの医療機関や介護事業所等が利用することにより、在宅医療はもとより大規模災害時や感染症拡大時にも大いにその力がさらに発揮されることが期待されています。

本圏域においてKMNの利用が一段と進むよう関係者の皆様のご理解とお力添えをお願いいたします。

次は菊陽町地域包括支援センター 保健師 平井様にリレーします。

